

人数減少対策アンケート 追加調査

実施したアンケートで、体験会で実施している面白そうなイベントを実施しているチームや、チーム人数の多いチームに追加でヒアリングを行いました。

■A 校区

<ボール宝さがしについて>

A 校区チーム合同での体験会でやっている『ボール探し』は、特定のボール（例えば赤色ボールや番号を書いたボール）を時間内に見つけるというものです。

体育館の中に複数のボールをばらまいたり、跳び箱の裏や三角ポールの中、カバンの間、体験会保護者の足の上に隠したり。大人のお腹や背中、パーカーの帽子に入れたりして子どもたちも追いかけて回したりしています。

6年生にも手伝ってもらっていますが、体験に来てくれた子どもと保護者・部員・大人とのコミュニケーションもとれて楽しんでいます😊

■B 校区

<チーム新聞について>

ポートボールの大きな大会や楽しいイベントがある時に写真を撮っていただき、その内容を1人の保護者の方がまとめて新聞を作っていただいております。その新聞を3、4ヶ月に一度くらいに学校の職員室の前の掲示板に張らせていただいております。

<お誕生日会について>

2ヶ月に一度くらいその月の対象の子ども達のお誕生日をチームの子ども達、保護者のみんなでお祝いしております。

楽しいゲームもその時に一緒にやっています。ゲームは子ども達自身が考えてきてくれます。今はポートボールを通じて子ども達が楽しめる様に考えてチームの子どもを確保しようかなと頑張っています😊😊😊

■C 校区

①4年生が一気に5人ほど増えていますが、きっかけは体験会でしょうか。

元々4年生が1人しかおらず(去年度3年生の時4~3月までずっと1人でした)その子より下の学年もいなかったため、その子とその子のお母さんが学校で声をかけたり、お家に遊びに来た子に声をかけたりしてくれました。体験には実際その学年の子が10名ほど来てくれました。当支部では春に宿泊親睦会もあり、ポートに入るとこんなのもあ

るよ！と体験会時に子どもと保護者の方に話すと、それにも行ってみたい！ということもあり数名入り、それにつられて数名入ってくれました。

②行事や参観の後で体験会をしています。普通にやるより効果がありますか？

行事や参観後に体験会を行う場合は、午前中の行事や参加の後お昼休憩等をとらずに、そのまま1時間程度体験会を行ってお昼ごはん用のおにぎりを来てくれた子に渡しています。行事や参観では必ず学校に来ているので、そのまま体育館に来るだけで参観できるので体験会の参加人数は比較的多いように感じます。前もって声をかけている子はもちろん、当日飛び入りで参加してくれる子もいます。参観後だと保護者の方もたくさん来てくれるので体験会の中のゲームでは、ゴールマンやガードマンに協力してもらったりもします。

③体験会の案内はどのようにしていますか。

体験の案内は、パソコンやイラストが得意な保護者がいるのでチラシを作ってくれています。そのチラシを学校から全員に配布してもらったり、小さめに作った別のチラシを子どもから子どもに手渡しをしたりもしています。お家が近所の人などには保護者の方が声をかけてくださっています。

④体験会のときに要しているご飯やお菓子はポートの会計から出していますか？

お菓子やご飯の用意は保護者の中で時間のある方が買いに行ってくれています。お金はポートの会計からです。

■D 校区

8人役員さんがいます。勧誘は各役員さんのついででの勧誘になります。役員さんの人数が多いので、入ってくれる子どもも多く、中には水泳の習い事をやめて入ってくれた子もいます。

<ボール集め>

ハーフコードの真ん中に、ボールを5つ、あるいは、6つ置きます。

ハーフコートの上隅が自分の陣地になり、サポートの人が一人ずつが陣地に足を開いて座ります。4つの陣地にひとりずつ立ち、よーいドンでボールを集めます。時間は1分。

ボールを自分の陣地にもってきたら、ボールを投げずに床に置くのがルールです。

他の人の陣地にあるボールを奪いに行ってもよく、自分の陣地に先に3個ボールを集めた人が勝ちです。自分の陣地にボールを置いたら、振り返ってどこにボールがあるか、をすばやく見てスピードを出して取りに行きます。

ボールは投げてはいけないルールなので、腰を落としてボールを拾う、腰をおとしてボールを置く、1分間全力で走るのでゲーム性を持ちながらトレーニングにもなります。

■E 校区

運営の母体は、連合子ども会になります。単位子ども会から加入している子は、年会費無料、子ども会のない子どもは、年会費を払って活動します。保護者の間の仲が良く、頻繁に飲み会を開いています。（←他から見ても、イベントごとなどで保護者の乗りもよく、和気あいあいとした雰囲気がつたわってきます。）

年々子どもの数が減っていることをデータ・資料で連合子ども会に示してチームがなくなる危機感を訴え今の体制を作りました。

同じブロックの他の2チームと一緒に定期交流会（2か月に1回程度）を会場持ち回りで開催しており、その中で、A戦、B戦、ちびっこ戦を開催して、全学年の子供たちが試合を経験できるようにしています。交流戦では毎回優秀選手を選んで、子供たちのモチベーションアップも図っています。

■F 校区

門明け、試合当番、などの回数カウントして。数字にして見えるようにしています。新入部員の保護者は、1年目は免除しますが、ライン Gr には入ってもらいます。当番のことはラインには流すので、次年度からは保護者の方から手伝う声があがってきます。

ちらしではなく、子供から子ども個人に直接お手紙を出します。入ってもらうまでに回数をこなします。体験試合では、ゴールマン、ガードマンにいきなり入ってもらいます。

■G 校区

<ドリブル相撲>

コート内で時間を決めて、チームで大将を決めて、カットをして出します。新しい子は利き手で、チームの子は逆手でやったりします。大将が負けたら終わりです。

折角入部しても続かないこともあるので、子ども会に入る前に、午前は体験（新しい子は午前中）で午後は練習にして、何回か体験してもらってから入部してもらうようにしています。